小中校特支	★あなたがとりわけ『児童生徒のストレスや不安定な精神状態』と関連が深いと思われる要因について、具体的にお書きください。
小	１日の授業時間が増え、毎日６時間授業のために下校時間が遅くなっていることが児童にとっても先生にとってもストレスとなっている
小	２年生は初めてのクラス替えで、新しいクラスに慣れるまで時間がかかったようです。高学年は母子家庭の児童や勉強が苦手な
小	いつもと違う日常に戸惑う大人のストレスを感じ取っている
小	クラス内の人間関係
小	ゲームなど情報機器の使用時間
小	ゲームやインターネットの使用時間が増えたこと。
小	ゲームやインターネットの使用時間が長いなど生活リズの乱れ
小	ゲームやインターネットの使用頻度の増加に伴い、学校生活のリズムへ切り替えられなくなっている。
小	ゲームやインターネットへの依存度が高まった事による登校意欲の低下。
小	これまで経験したことのない生活や、不安への不適応
小	コロナウィルスという得体の知れないものをどう対応すればいいのかが分からない点
小	コロナ不安。
小	ストレス
小	なにをするにも制限がかかっていること
小	マスクの着用による息苦しさ等、新しい生活様式に馴染むことができていないため。
小	マスクをしたままの学校生活、楽しい行事が制限されている 。
小	マスクを常時着用すること
小	マスク着用で息苦しい、表情がよめない
小	マスコミの報道、外出を制限され友達と会えず気分転換できないこと
小	メディアの時間が増え、生活リズムが崩れ、登校しぶり、家庭内軋轢がうまれている。
小	もともと集団生活に慣れるのに時間を要する児童にとって、学校再開後は生活に制限もあり遅れた授業を進めるのに授業時間も増えており、精神的にも肉体的にもキャパをオーバーしているのではないか
小	もともと不登校傾向だった児童の頑張りの糸が、長期休校によって切れ、不登校になったこと
小	運動会や修学旅行、こどもたちが楽しみにしていることが中止になっていること
小	運動会や宿泊行事などの学校行事の変更や縮小、
小	家庭での過ごし方や学習、遊び、行事の制限が関連していると思われる。
小	家庭での時間が長かったために、人間関係が築きにくい状況で渋りがちなこがみられる
小	家庭での生活時間が長かったので、家族との関係が良好でない児童に障害が出ている。
小	家庭では、親子がずっと一緒にいる時間が、多くなった、または、ほったらかしで不満が増加した。学校では、グループで、何かを作り上げて行く機会がないため、友達関係が表面的。嫌われないかと気を使っている児童が、多い。勉強に関する不安の子も多い。
小	家庭により教育環境の格差があり、再開後はその影響が現れていると思われる。自主学習に取り組まなかった子は学習意欲が低下し、また進度の速さについて行けないことから、さらに登校意欲も落ちている。
小	家庭の教育力
小	家庭の状況
小	家庭の人間関係の悪化
小	家庭の力が弱い、親も不安とストレスを抱えている家庭
小	家庭環境
小	家庭環境
小	家庭環境
小	家庭環境

小	家庭環境
小	家庭環境から、食事が充分に作れない、子どもとかかわりが難しい、保護者の精神状態が不安定など。
小	家庭環境の影響。休校期間の長期化による生活リズムの乱れ等による登校、学習意欲の低下。
小	家庭環境や生活習慣の乱れ
小	家庭内での人間関係、学校での対人関係
小	家庭内の人間関係・親子関係
小	我慢や禁止の多い生活により発散する場がない
小	外で遊べないことによるゲーム等の依存から、昼夜逆転。不規則な睡眠、食事による体重減少あるいは体重増加。
小	外出の自粛。友達との会話の不足。家族間、家庭内でのストレスの影響。
小	外出の制限、SNS
小	外出や行動の制限。学級作りの始まりが、2ヶ月も遅れたこと。
小	外出自粛による行動制限で、友達と直接会って話したり、外出や外遊びによるストレス発散ができなかったこと
小	学級作りが出来ていない状況のまま、通常授業が始まり、ついていけない子がいるのではないか。
小	学校が学期末と学期始まりに休みになり、普段と違う生活を過ごすことになったこと。
小	学校での楽しいこと（全校遠足、縦割り遊びクラブ活動）がなくなり、授業も活動的なことが減った。そんな中でじっと教室で座っていることが苦痛な児童が体調不良やトイレに立つなどが目立ってきた。
小	学校での遊びが制限されていること。
小	学校に行っても本当に大丈夫なのか、自分も新型コロナに感染するのではないかという不安。
小	学校の諸行事や諸活動の縮小・人間関係
小	学校の生活リズムが崩れたことに関連が深い。また、前でも記載したが、家庭への負担が重く、虐待へと繋がったまたは、それに近い状態に至ったケースが多くある。
小	学校行事の中止や縮小
小	学校生活や行事、家庭生活がコロナにより変わって、変化に弱い児童は不安定。外出できず、ゲームばかりしていた児童も増えた。
小	学校内外の日常生活全般において制限が多い中、授業時数が増え、夏休みも短縮され、行事が削減されるなど、ネガティブなことが多いこと。
小	学習。遅れた分、取り戻さないといけないため、詰め込みすぎている気がします。行事ほぼカットで、土曜授業した上での授業です。
小	学習の進みが早くついていけない
小	学習の遅れを不安視した。
小	楽しみにしていた運動会や宿泊学習などが無くなり、コロナ対策と勉強だけになったこと
小	活動の制限。感染に対する不安。
小	感染に対する不安
小	感染への過度の恐怖感。保護者の過度の予防対策。
小	感染拡大防止のための休校や分散登校などこれまでと違う学校生活、感染への不安、夜型の生活
小	感染者増加に伴い、もし発熱し友達に感染させてしまったらどうしようと悩むケースが多い。
小	感染症に過敏に反応する児童が増えた。
小	感染症に関するニュース、保護者の不安が移る、勉強への意欲低下
小	感染症に対する不安
小	感染防止にあたり友だちとの活動の制限
小	感染防止のために、学校での遊びや友達との交流などが制限されていること
小	感染防止のために様々な活動が制限されていること
小	感染防止のための行動制限が多いこと

小	感染予防のために様々な自由が奪われていること
小	基本的な生活習慣の乱れ、家庭内での自粛
小	機能不全家庭 発達障がい 田舎特有の閉鎖的な社会
小	規則正しい生活リズムが乱れたことや、人との関わりが減ったこと
小	虐待が心配です。
小	休校から分散登校、通常へとリズムが変わったこと。新しい生活様式として、新たなルールが沢山加わったこと。大人の余裕がない事(保護者も教員も)
小	休校が長く続いたため、学校に来るのがしんどいと思っている。初めのほうは休みも少なかったが、だんだん慣れない暑さの中登校することや、学校での生活リズムが確立されていない。
小	休校が長期間になったことで登校意欲の低下、家が良くなった児童が増えている。
小	休校が長期間に及んだことによる登校への不安
小	休校が長期間に及んだことによる登校意欲の低下
小	休校が長期間に及んだことによる登校意欲の低下
小	休校により、学校に行くことがあたりまえではなくなり、休んでも構わないという意識が強くなった。人間関係の構築ができない
小	休校により生活リズムが乱れたこと
小	休校により生活リズムが乱れたことに加え、新しい生活様式に慣れなければならないこと
小	休校によるいつもと違う生活リズムになっていること
小	休校によるいつもと違う生活リズムになっていること
小	休校期間は家族という小集団での関わりが多かったこと、ストレスを発散する方法が限られていたことなど
小	休校中、家庭での生活で心が安定した子どもとそうでない子どもがおり、明らかに再開後の様子や取り組みにでている、特別支援学級の子どもたちも頑張っているが、気持ちのコントロールと疲れのコントロールができずに困っている様子をたびたびみかける
小	休校中にワイドショーやニュースをたくさん見過ぎて不安が増大しまった
小	休校中に制限が多かったことによる人間関係の低下。
小	休校中の家庭内の人間関係、親子関係
小	休校中の課題がわからない・終わらないこと。外出や交流制限による「我慢」の増加。習い事のスポーツの大会がなくなり、目標を失ったこと。保護者の仕事が減り収入減による焦りが子どもに伝わっている可能性。
小	休校中の課題や、授業のスピード、感染への不安が身体にでてきたりしています。
小	休校中の学習への取組が家庭によって差がある。そのため、元々勉強への苦手意識があった子どもや学習の遅れが見られた子どもが、勉強への不安感が強くなり、相談や体調不良で来室することが増えた。
小	休校中保護者がずっとそばにいたことによって、赤ちゃん返りしている様子がうかがえる。
小	急な行事予定の変更等
小	継続する非常時による精神的負荷
小	交流の制限、自粛生活
小	行事の中止や行動の制限。生活リズムの乱れ
小	行事縮小や交流制限により、友人関係が築きにくく、不登校になってしまった。
小	行事等の中止や延期が相次ぎ日常とは程遠いこと。
小	行動が制限されたり、イベントが計画できず楽しみが見出せない。生活リズムの乱れ、親の職業への影響が、子どもの生活への不安も起こしている。
小	行動の制限
小	行動の制限、予測不能な今後の生活
小	行動の制限が多いこと、長期の休校だったため集団生活のリズムに馴染めずにいること
小	今までがんばってきたことの発表の場や、がんばりたいと思っていた学校での行事がなくなったことで、児童の意欲が低下している気がする。
小	今までできていたことが制限され続けていること。連日の過剰なコロナ関連の報道により、小さな体調の変化にも過敏になっている児童がいること。

小	今まででできていた友達との関わり（友達の家で遊んだり、出掛けたりする等）が出来なくなってしまった)ことや、楽しみにしていた行事等が中止になってしまっていること。
小	今までの生活と変化してしまった状況への適応
小	今年度合併したため、特に新しいクラスになじめるかなどの不安が大きい。
小	子どもたちの様々な活動に制限がかかっていることが大きな要因だと思う。
小	子どもの人との蜜な生の関わりの不足と外遊びの不足
小	子どもを取り巻く、保護者、教員の不安や焦りが、子どもたちを不安にさせていると思う。
小	子供の心に潜む、見えない敵に対する恐怖心や日常を奪った悪いやつに対する嫌悪感。
小	児童、保護者、教員がみなストレスのある状況で、児童のケアが行き届かない。
小	児童の様子に職員も精一杯であることです。マンパワーが足りません。
小	自粛中、自宅に１人ないし兄弟で留守番していて、不安を毎日抱いていたり、保護者がコロナや勉強について、毎日のように話を聞いていたせいで、本人の不安が増した例など)
小	質問の意味があまり分からないのですが…
小	主要教科の学習活動が極端に多くなり、楽しい副教科の時間が非常に減っているため、息抜きができる授業が少ない。
小	授業でも時数をまかなうことが優先になっており、行事が極端に減っていること。
小	授業ばかりで行事がなくなっている
小	暑さ、生活リズムの変化
小	諸行事や諸活動の削減。6年生でいえば代表として立つ場が極端に減ったので活気がないように感じる。
小	上記のことが複合的に関係し、不安が上手に解消されなかったことが主な原因だと思います。
小	常に感染症にかかる恐怖を意識したり、予防行動をとらなければならない気疲れがあると思う。一部の子どもは、生活リズムが乱れ、精神的にも不安定になりやすいという悪循環が生まれている。
小	色々な行動が制限されたり、以前と違う行動が必要になことが続いていく中でストレスが増えていると感じる。
小	心因的な理由で視力、聴力の低下した児童がいる。
小	新しいクラス、友人、担任に馴染めないことや、学校へ行く意欲の低下や意義が分からなくなってしまった児童がいること。
小	新しい学年、学級、担任になかなかなじむことができなかった
小	新しい環境になった矢先に、普段とは異なる生活様式を求められているため、心身ともに疲弊しやすい状況であることが大きいと考える。また、そのような状況において教員側もストレスを感じているため、ストレスマネジメントが上手に出来ておらず、子どもも教員も疲れてしまっていることも要因の一つと考える。
小	新しい環境に慣れようとしても感染防止のために多くのことが制限されること
小	新しい生活様式に馴染めなくて、強いストレスを感じている。
小	新しい生活様式を取り入れた学校生活
小	新型コロナウイルスに感染したらどうしようという不安感からストレスを感じているように思う。
小	親子間、担任と児童とのコミュニケーション不足
小	親子関係の悪化が顕著に見られたため、児相に通告した。
小	人との関わりが制限されることで、悪い出来事の修正が難しくなった
小	人との距離をとらなければいけないことへにストレス
小	世の中がおちつかないこと
小	世界的な流行の報道による漠然とした不安感
小	制限されているところが多く発散できていない
小	生活が制限、注意されることが増えたなど
小	生活の変化
小	生活の乱れによる、不適応
小	生活リズム、電子機器の使用

小	生活リズムが狂ってしまい、精神的に安定していないと思われる。
小	生活リズムと登校意欲の低下による慢性化した遅刻
小	生活リズムの悪化
小	生活リズムの急変　親の不安の影響　過密な授業
小	生活リズムの乱れ
小	生活リズムの乱れ
小	生活リズムの乱れ
小	生活リズムの乱れ
小	生活リズムの乱れ
小	生活リズムの乱れ(夜型生活、ゲームをしていないと落ち着かない、食生活の乱れ、すぐに疲れて体調が悪くなる、親が在宅勤務だったため分離不安になった、反対に緊張状態に置かれていたなど)
小	生活リズムの乱れ、インターネットへの依存、家族関係
小	生活リズムの乱れ、登校しぶり、学校行事の中止や延期などからくる疲れ
小	生活リズムの乱れから投稿意欲の低下
小	生活活動の不活発さ　メディア時間の増加
小	生活習慣や生活リズム等の乱れ（ゲーム等の使用も含む）
小	先が見えない不安感、生活習慣の乱れ
小	先生や友だちと会えない期間が長く、低学年でも寂しさを感じている子がいる
小	繊細な児童にとって、クラス替えや転入でただでさえ精神的負担がある中、交流の制限により、馴染むチャンスがない。
小	体力が低下したことから気力もなくなったように感じる。
小	対応する職員の不足。専門的知識を持ったカウンセラーなどが小学校にいないことが問題。
小	大人もストレスを抱えている
小	大人も経験したことのない事態に、子どもも地に足がつかないといった不安定さが気になります
小	担任の目が一人ひとりにむかない。子どもの学習意欲の低下。
小	長期にわたった休校期間
小	長期の休校
小	長期の休校中、外出や外遊び、友だちとの交流などが制限されたこと
小	長期間友達との交流が制限されたことによる人間関係の不安
小	長期休校中における親子関係の変化、きょうだい関係の悪化。予期せぬ長期休校における登校意欲の低下。
小	長時間の動画やゲームによる生活リズムの悪化や
小	登校できない
小	登校意欲の低下、体力など身体的な能力の低下
小	突然の休校や、学校再開に心身がついていけてない
小	日々の制約、漠然とした不安
小	発達障がいの有無、複雑な家庭環境
小	微熱、体調不良が長く続く児童がいた。病院に行っても特に診断もない。クラスへの不安を抱えている、など。
小	病気に対する不安もある。なんとなく前年度が終了し、なんとなく今年度が始まりクラスの中の自分の位置、居場所が見えてこない不安
小	保護者が不安定になっている。子どもを受け止めきれない。
小	保護者の不安が児童に伝染しているように感じる
小	保護者もストレスを抱えてしまい、その影響が児童にも出てしまっている。また世間の不穏な空気を察して、不安定になっている児童も多い。それに加え、虐待傾向の家庭も、家庭環境が悪化してきている。
小	母子分離不安。生活リズム

小	母子分離不安が悪化して登校できない事例がある。
小	報道で、毎日のように危険な状態と知ることができる点や、約3ヶ月ほど家で生活したことで母子分離等ができない状態になっている。
小	本人の発達等によるものがもともとある上に、家庭の状況が安定せず休校が長引いてしまった。休校中に学年が上がるとともに新しい担任とクラス替えで大きな変化があった。そのため精神的な負担が増して、自殺願望を持ったり、拒食傾向になったりして、全く登校出来なくなった。
小	毎日の生活が、漠然とよくわからない不安に包まれていること。
小	密を避けるため、休み時間など自由に友達と触れ合って遊べないこと
小	目に見えないコロナへの不安とクラスの人間関係
小	友だちと会うことが制限されたこと。教員の入れ替わりにより、養護教諭、担任と子どもが慣れないまま、信頼関係のないまま休校になり、学校再開の不安な気持ちを言い出せない状況にあったこと。
小	友人と遊ぶことができないこと
小	友人と遊べない　運動などができない　旅行などのイベントがない
小	友人と遊べないことや外出できないことなど、ストレス発散の場がないこと。
小	友達と交流できなかったこと
小	遊びなどが制限され、ストレスが発散できないこと。
小	遊び方の制限、友達との会話や交流の制限、マスク着用により相手の表情が見えない
小	様々な制限がある中での活動、生活
小	両親が、共働きの家庭が多くて、子どもたちだけで留守番をしていた。
中	①対人関係が上手でない生徒は、新しい学年がスムーズにスタートできながったので、とても辛そうでした。②子どもが常にいることで、保護者が精神的に不安定になり、子どもにも影響が出た家庭がありました。
中	1年生に新しいクラスメイト、担任などクラスに馴染めないという生徒が目立つ。
中	1年生は友達ができるか等精神的な面で不安定な生徒もいる
中	3ヶ月間学校や人間関係などの面でストレスフリーな状況で生活した子どもたちが再び学校に戻ることが難しくなっている。
中	4月の5月の大事な時期に休業したため、クラスに馴染んでいない生徒が多いこと、学校行事がどんどん中止になり人間関係づくりのチャンスも減っていること
中	SNSの利用過多による友人関係のトラブル
中	ある程度やること(目標)があり、ある程度人との関わりがあることが重要だと改めて感じた。休校によりそれらが失われてしまい、バランスを崩した生徒も多かった。
中	いろいろな行事が中止や規模縮小になったり、新しい生活様式のもと日々の生活に制限があったりして我慢することが非常に多いこと。先が見えない不安。
中	ウイルスが見えないだけに不安がつよくなること。さらには、治療薬やワクチンが無いため、体調が優れないと感染したのかもしれないと言う不安。
中	クラスに馴染めるか不安になる。
中	コミニケーション
中	コロナとの戦いが長期戦になっていること
中	ネット利用が増えたことや、家族関係が変化したこと。
中	マスクの着用
中	マスクをつけない他の生徒や、大声で喋ることで飛沫を受けるのではないかと不安になっている。部活動の大会などがなくなり、目標を奪われて抑圧状態になっている
中	マスク着用と蜜の回避による精神的な距離の増大
中	ゆとりのなさ
中	夏季休業の短縮や暑さによる負担
中	夏季大会、体育祭、合唱コンクールなど行事がなくなり、メリハリや楽しみがなくなってしまったこと
中	家庭、教員とも忙しく、不安や悩みを聞いてくれる人がいない。見つけられない。
中	家庭で長く過ごすことで家族との関係が悪化した生徒が気になる。
中	家庭の状況、生活リズムの乱れ、報道等からの不安

中	家庭環境による影響を受けやすい生徒、発達に障害を抱えている生徒
中	家庭内の人間関係
中	外出自粛の雰囲気が長引き、十分な活動や運動ができない、イベントや行事、旅行等ができなくきなく生活にメリハリが生まれにくい点
中	咳や発熱などに過剰に不安を感じている生徒がいる
中	学校の行事や活動が縮小されたり、中止になったりしていること。
中	学校は密を避けられない場面も多いので、感染の不安がある。
中	学校生活だけでなく、家庭生活においても様々な制限があり、自由を奪われていること。
中	学校生活でのマスクとソーシャルディスタンス
中	学校生活での活動制限や、部活、行事の削減
中	学校生活への不適応
中	感染に対する恐怖、自由に外出できないストレス、仲間に会えないストレス
中	感染症そのもの、生活環境の変化に、漠然とした不安を抱えている子どもが多くいるように感じています。
中	環境の変化
中	虐待、リフレッシュ不足からの精神不調
中	休みが少なくつかれている。
中	休業期間における生活リズムの乱れ
中	休校があけて、急に授業や部活動が普段通り始まったことによる疲れ。マスク着用による不快感や熱中症対策も兼ねて予防しなければいけない負担。
中	休校が長期間行われた為、学習意欲の低下や集団行動に適応出来ない生徒が増加したこと。
中	休校期間に長く家にいることによる親子関係への影響
中	休校中好きな時間に起きて、好きなだけゲーム等の趣味に没頭していた分、学校が始まり朝早く起きなければならなくなったり、ゲームに充てられる時間が短くなったりと我慢しないといけないことが増えたこと
中	教員が対応しきれない状況
中	教員が対応できてきないこと
中	行事がなくなり、生徒同士の関わりが希薄になったこと。
中	行事の実施の有無、高校受験
中	行事の縮小や夏休みの短縮で、いつも通りじゃない1年に、特に受験を控える3年生は不安が大きいように感じる。
中	行事や部活動の大会がなくなったことによるモチベーションの低下
中	行動が制限されていること
中	行動面の制限、新しい生活様式への適応
中	今までの生活とは変わった部分が多く、行事の変更も多くあり、先の見通しがたたないことへの不安を抱いている生徒が多い。
中	今まで通りの生活が出来ない事
中	子供たちが楽しみにしている学校行事が中止になったり縮小になったりして、学校に来る楽しみが減っている。
中	自分が感染したかもしれないと不安
中	社会的混乱に必死に耐えよう、受け入れようとしていることからのストレスの解消方法がなかなかみいだせないこと。メディアの取り上げ方にも影響をうけていると感じる。
中	受験
中	受験への不安や新入生新しく着任された先生とのコミュニケーション、学校行事の実施の検討など
中	受験生である、3年生は進路や定期テストの不安や焦り
中	授業についていけるかどうかの不安
中	上記同様
中	新しいクラスや学校に馴染めるか、友だちができるかなどの不安や緊張

中	新しい生活様式。感染の不安。生活リズムの乱れ。
中	新しい生活様式の学校に、まだまだ受け入れられていない。
中	新しい生活様式を始め、これまで・・・が通用しない。生徒が楽しめる行事、中体連もなくなった。3年生はとりわけ、やり場のない気持ちであろう。
中	新学期がスムーズにスタートしなかったため、学校に登校するリズムが整っていないことや、友達関係をうまく作る機会も逃してしまったこと。
中	新学期のスタートするための学校行事や家庭訪問、体育大会、教育キャンプ等の活動がなくなり、人間関係を上手に結べない子たちがいつもにも増して困っている状況がみられた。
中	新学期直後からの休校期間が長くなり、新学期をうまくスタート出来なかったこと。
中	新型コロナに対する不安
中	人との関わりの減少。休校という初めての体験
中	睡眠不足
中	生活のリズムが崩れたこと、友達と会う機会がなくなったこと、ゲームやインターネットの利用も増えて、それぞれが起きたことにより意欲の低下になっているように思う。
中	生活リズムの乱れ
中	生活リズムの乱れ
中	生活リズムの乱れと学校から出された課題をこなすことができていない、特に新1年生の生徒たちに不登校傾向が見られるため、生活リズムを取り戻すべきであると考える。
中	生活習慣
中	生活習慣、活動の縮小や中止
中	生徒が楽しみにしている行事の削減
中	先の見えない感染症への不安
中	体力低下
中	大人（教員や保護者）の不安定な精神状態が大きいと思う
中	大人も、子どもも言いようのない不安の中で生活していること。先が見えない、感染への恐怖、など誰からも「大丈夫」という確信が得られないこと。
中	中1ギャップが多い。休校、分散により中学校生活に馴染めず、行事等もなかったため仲間づくりや友だちと交流できずクラスに馴染めない。
中	中3の生徒は、特に学習面での不安が大きい。また、殆どの行事がなくなってしまったので、目標となるものがなくなってしまった。
中	中学３年生でも母親との母子分離ができなくなっている。母親といっしょに寝ている。車での送り迎え。学校再開後、心身の不安定で精神内科にかよい、内服をしている。　授業に集中できないため、途中で保健室や相談室で過ごすことを希望する生徒がいる（落ち着いて1時間座って授業を受けられない）本人、保護者との面談が何回も行われている状況である。（1.2年生までは全く保健室に来たことがなかった生徒である）
中	長期の休み、人との関わりの減少、行事の無い学校生活
中	長期の休校中、外出や外遊び、友だちとの交流などが制限されたことによるストレスの影響
中	長期間家庭内で過ごさなければならなかったことで、友達との直接的な関わりが制限され、新年度の人間関係作り期に分散登校なるなど、スムーズな友達との繋がりが築けなかったことは大きいと思われる。
中	長期休みが続いたため
中	長期休業中の親子関係の影響
中	通常の流れで学校生活が送れないため、臨機応変の対応が苦手な生徒には苦しいということ。
中	部活動の活動が減ってしまった。
中	部活動の大会がなくなり、やる気が0になった生徒がいる。現在教室に入ることができなくなり、保健室登校しはじめた。
中	部活動の大会や学校行事の中止、延期により、目的を見失うこと、活躍できる場の減少
中	分散登校から学級作りの時間が無く友人作りができなかった、学校行事の削減、家庭でのストレス等
中	勉強面への不安

中	保健室来室に制限があること。
中	本校での該当者は校区外から転入してきた生徒であり、体調不良への不安や友人関係、家庭内の人間関係などによる。
中	本人も家族も世の中も、いつまで続くのか、これからどうなるのかという漠然とした不安があることや、長期休校という初めての経験による不安
中	未知の事態に対応できていない
中	例年とは全く違った学校生活。学校行事の中止や変更。おしゃべりなど、制限されることも多く。ストレスは多いと感じる。
中	家庭内での保護者の喧嘩の多さ
中	休校により転入生、新入生が学校や学級になじみにくい
中	社会全体における先の見えない不安
高	1年生における、周りとなじめるのかが不安なこと
高	１年生は入学と同時に休校になり、友人関係も築けていないままである。中学時代の友人とは違う学校に進学した生徒は、誰を頼っていいのかわからず精神的に不安定になりがちである。
高	3年生の進路について動き始めが遅れて本人の中で焦ってしまったり、家庭内が落ち着かない、逃げ場がなく不安定になる等、訴えて来室する生徒が多かったです。
高	いつもと違う学校生活(感染防止のため生活に多くの制限がかかっている)
高	コロナにかかるのではという不安や、受験等の先が見えないことによる不安
高	コロナ感染への不安と学校行事、部活動などの縮小や取り止めによる意欲の低下、友達との交流の希薄など
高	テレビやネットで流れるコロナ情報により不安を煽られているように感じる
高	やりたいことを自分で見つけられる生徒（自走できる生徒）と、できない生徒の差→休校期間中もオンラインを使いこなし、探究をすすめている生徒はいきいきするが、逆にやりたいことを見つけられなかった生徒はイベントや行事がないことで、そのエネルギーが負の側面に傾くと感じた。
高	悪いニュースばかり流れている事
高	家族や本人の特性など、これまでの個々の課題が深刻化していると思う。
高	家庭の収入の減少
高	家庭環境が悪化している生徒は、学校が居場所になっていた。自分の悩みや不安を吐き出せる場所がなく、家にこもる日々精神的に不安定になっていると考える。
高	家庭内不和などや、ストレス発散ができないなど
高	学校行事や部活動の制限
高	感染防止のために、行事や友人との交流が制限されストレス発散ができないこと
高	環境の変化
高	環境の変化。不登校や発達障害の生徒を多数受け入れているためで、適応には時間がかかる。
高	休校が長かったことと、いつ感染するかわからない不安感
高	休校で考える時間が多くあり過ぎて不安に陥ったこと。
高	休校期間が長くて不安になる生徒が多い
高	休校期間で生徒の周りの環境が大きく変化している場合もあるが、教員たちがそれを考慮しないことが多く、元々の生徒の性格や特性を責める場面が多い。
高	休校期間や時差登校で、普段と異なる生活状況となったことに加え、自身の学力や受験に対するストレスが大きいことが要因と考えられる。
高	教員に余裕がないため、生徒のサインを見逃してしてしまうのではないか。
高	携帯、ゲーム、ネット依存
高	今までに経験したことがない状況になり、教員含め、先の予定を伝えられない。
高	在宅勤務の夫婦間のトラブルに子どもが巻き込まれたこと。
高	自粛によるコミュニケーションの減少
高	情報の取捨選択ができないこと。良くも悪くも膨大な情報をSNS等を通して簡単に得られるなかで全部鵜呑みにしてしまう。
高	新しい環境に馴染むのに時間がかかる生徒達が、過去のトラウマを思い出し、うまくスタートできなくなっている。

高	新しい生活様式による、行動の制限。また、それに付随する緊張感。感染予防策へ労力も裂かれることによる教職員の余裕が心身共に削られることによる、生徒対応への影響。
高	新型コロナ感染症の感染不安や先行きの読めない不安が多くの生徒にあり、そこへ更に家庭・友人・進路などの不安が増大した時に大きくバランスを崩している生徒がいる。
高	制限が多い生活、学校生活の変化・縮小状態の長期化、進路への不安、家庭の経済状況の変化
高	生活の変化と未来への不安
高	生活リズムの悪化
高	生活習慣の乱れ　学習についていけない　新入生の中にはマスク着用でクラスメートの顔が分からない生徒もいる。人間関係の構築が難しい。
高	先が見えない不安、大人の発言がバラバラ
高	全ての意欲が失われたように感じる。元々新しい環境に適応しにくい生徒は、この休校でこれから自分がこうしようと思っていた計画、思い描いた生活リズムを崩してしまったように感じる。
高	発達の特性が顕著に出現
高	非日常を日常として過ごさなければならないこと
高	分散登校や通常の学校行事とのズレがあること
高	友達や仲間作りができないまま、授業優先の学校生活を過ごしていること。
高	これまでと変わった学校での生活様式
高	コロナにより、部活や行事などの活動に制限が出ていること。
高	家庭環境、発達特性
高	各行事が中止になっていること。
高	休業からほぼ通常通りに始まった授業や部活による疲れ。
高	新学期、クラスの集団づくりを行う活動が十分に取れていない。小中高それぞれでとりくめる、感染対策をしたクラス運営の方法、レクレーションなど国から例示してほしい
高	中等部3年生や高等部は進級に関わるため、学校再開後は体調不良でも無理に登校し夜遅くまで起きて勉強している様子が見受けられる。また高等部3年生は大学受験がどうなるか分からない中で勉強しているので、夜遅くまで学校に残り自習している生徒も多い
高	長期間の休校による心身への影響
高	通学に電車・スクールバス利用者が多い。学習面・受験勉強に不安を感じる生徒が多い。
特支	コロナについてのニュース番組が多く、それらを観る生徒も多い。情報には敏感に反応している。
特支	家族との関係
特支	学校行事がカットされ、とりわけ外部入学した生徒は、学校に馴染めず、教育課程の見通しもできないでいるせいか、心身に不調を訴えている
特支	新1年生は新しい環境への抵抗感が高くなったように感じる
特支	新型コロナウイルス感染症に対して必要以上に恐怖を感じ、消毒や周囲の過ごし方に過敏になりストレスを感じている生徒が多い
特支	生活パターンの変化、保護者の不安
特支	生活リズムの乱れ、特に睡眠の乱れとの関連が深いと思われます。
特支	生活リズムの乱れと家庭格差
特支	先が見えないことが多く、なんとも思っていないような子どもにも何かしらの影響が出ていると感じる。
特支	密な人間関係ができないこと。